

一般社団法人 三重県作業療法士会 広報誌

OTみえ

No.142

2025.2

NEWS

第35回三重県作業療法学会のご案内

contents

【広報部からのお知らせ】

掲載内容について

会員の皆様へ：広報誌への掲載希望、要望についてご意見をお聞かせください。

広報部 e-mail: mieot.kouhou@gmail.com

【巻頭言】

第35回三重県作業療法学会のご案内 学会長 市立伊勢総合病院 中林容子

【知人 de リンク】

特定医療法人暁純会 武内病院 谷口裕幸

松阪厚生病院 嶋津貴大

【施設紹介】

ナーシングホームしらゆりケア 小林 優

【エキスパートに聞いてみよう】

鈴鹿回生病院 広瀬富二

【各部局、委員、ブロックの活動報告】

啓発部より 一般公開講座開催の報告／GO！GO！みいまるフェスタ

地域リハビリテーション部より 笑顔の花プロジェクト第2回／認知症カフェ・回想法勉強会に参加して
／地域リハビリをもっと身近に「作業療法士のための実践研修」に参加して

組織部より 東海北陸リーダー養成研修会に参加して

運転と作業療法委員会より 免許センター見学会に参加して

障がい者スポーツ推進委員会より

北勢ブロックより 研修会の報告

選挙管理委員会より

【賛助会員のご紹介】

日本モッキ 〒516-0008 三重県伊勢市船江3丁目17-19

Tel. 0596-65-6039 https://www.nihonmokki.jp/puzzle_rental/

株式会社システムネットワーク ヘルスケア事業部 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9F

Tel. 06-6364-0529 <http://www.system-network.co.jp/company.html>

田中セイ株式会社 〒518-0444 三重県名張市箕曲中村207

Tel. 0595-63-7851 <https://www.tanakaseni.co.jp>

学校法人名古屋石田学園 星城大学 〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台2-172

Tel. 052-601-6000 <http://www.seijoh-u.ac.jp/>

【勉強会・研修会のお知らせの掲載について】

勉強会、求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/study/>

【求人情報】

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

【編集後記】

表紙写真：大台町 大杉谷の平等嶺と吊り橋

第35 回三重県作業療法学会のご案内

第35回三重県作業療法学会 学会長 市立伊勢総合病院 中林容子

このたび、2025年3月9日(日)に第35回三重県作業療法学会を三重県立総合文化センターにて開催させていただきますことになりました。第35回三重県作業療法学会は、南勢ブロックが担当いたします。

学会テーマは、「Creating the future 作業療法の持つ力と未来を考える」です。

「未来を考える」には、作業療法の対象者の未来、私たち作業療法士としてのキャリアプラン、三重県作業療法士会のこれからや作業療法のあり方など様々な未来の意味を込めています。そして、そもそも作業療法士とは、未来を創造(クリエイト)するプロフェッショナルなのではないかと考えました。COVID-19の世界的大流行により社会が大きく変化しました。それに伴い、私たち作業療法士に求められているニーズも多様化しました。同時に、人とのつながりの重要性も再認識されました。社会がどれだけ変化しようと「作業療法士としてプロフェッショナルである」それは普遍的な事実です。

今後、私たちがプロフェッショナルとしていかに考え、行動するか。その選択が未来においてどのような違いをもたらすのか。それを皆様と共に考えたい。そんな思いから、上述の通り、今学会のテーマを「Creating the future」、副題を「作業療法の持つ力と未来を考える」にしました。

本学会の特別講演では、石川県立こころの病院 石川県認知症疾患医療センター副所長村井千賀先生に「OTが持つ力と未来を考える」をテーマにご講演いただきます。演題発表には過去最多の登録をいただき、口述とポスターの25演題を2会場で行います。さらに、本学会では企業様にご協力いただき機器展示と書籍販売も予定しております。

現在、実行委員が皆様に楽しんでいただける学会になるよう準備をすすめております。学会への参加方法を含め企画などの詳細は、学会ホームページでご確認ください。また、学会の情報は県士会のSNSでも発信しております。皆様のご参加を実行委員一同、心よりお待ちしております。



ホームページ

事前参加登録

知人 de LINK

特定医療法人障純会 武内病院
谷口裕幸

皆さんこんにちは。みたき総合病院の山田祐弥さんよりご紹介いただきました、武内病院の谷口裕幸と申します。

Q：現職の所属と分野について

一昨年、武内病院が開院し榎原温泉病院から異動となり、回復期リハビリテーション病棟で勤務しています。

Q：OTになったきっかけ

元々は全く別の分野で転勤族として10年程働いていました。「そろそろ地元に戻らないと」と考えていた時期に、後輩の薬剤師からこんな仕事があるよと紹介してもらいました。自分の手にした知識と技術で三重の人に何か貢献できないかと思い、大変な冒険でしたがこの仕事を選びました。

Q：仕事のやりがいや面白いと思うこと

一番嬉しいのは、笑顔で「ありがとう!」と退院されていく患者様の姿を見ることです。逆にそうでなかった時、なんて難しいのだろうと悩みます。だからまた新しいことを学び実践していく。こうやって自分の引き出しを増やしていける所が面白いと、今感じています。

Q：プライベートな趣味・特技・マイブームなど

今の趣味は登山、パン作りです。登山はダイエット目的で始めて、山頂からの絶景に感動し、3年程ですが今も続けています。今年は10月に石川県の白山(はくさん)に登ってきました。来年は富士山に登れるといいなと思っています。パン作りは子どもたちのおやつのためです。焼きたてのパンの香りと味は、お店のパンにも負けないくらいおいしいですよ。



Q：次へリンクする方のエピソードなど

今回は、専門学校の後輩で頼りになる元同僚でもありました、あるふぁ訪問看護ステーションの中澤理世さんを紹介させていただきます。よろしくお願いします。

松阪厚生病院 嶋津貴大

皆さんこんにちは。今回済生会明和病院の伊藤航平さんから紹介いただきました、松阪厚生病院の嶋津貴大と申します。

Q 紹介者や学生時代のエピソードなど

伊藤さんとは専門学校の同級生です。お互いの家が近く、下校後も公園でサッカーをしたり、遅くまでゲームをしたりと毎日のように遊んでいました。卒業後も休日にゴルフに行くなど仲良くしていただいています。

Q 業務内容、仕事内容について

私が勤務する松阪厚生病院は精神科の病院であり、私は日々入院患者様に対して作業療法を行っています。作業療法は病棟や作業棟での集団療法が中心ですが、入院患者様の年齢層や入院期間は幅広く、その方にとってのニーズやゴールも違います。そのため、入院時のインテーク面接や他職種からの情報収集をもとに目標設定し、その目標を意識したうえで日々の関わりにつなげていくことが大切だと感じています。そういった関わりを続けていく中で、患者様にポジティブな行動変化が見られた時に、この仕事のやりがいを感じます。

Q プライベートな趣味、特技、マイブームなど

最近は麻雀にハマっています。子供の頃に父から教わり、家族麻雀をしていたのですが、最近はスマホアプリの麻雀ゲームを毎日のようにプレイしてしまい、段々と妻から白い目で見られるようになってきた気がします(笑)。麻雀は自分や相手の手牌について考えるなど頭を使うことが多く、また対戦相手との交流も自然と生まれます。こういった点から認知機能の改善やコミュニケーションの促進にもつながるため、日々の作業活動にも取り入れられないかと考えています。

Q 次にリンクする方とのエピソード

今回は専門学校の同級生で、訪問看護ステーションかふうに勤務されている稲垣春南さんをご紹介させていただきます。稲垣さん、よろしくお願いします。



施設 ナーシングホームしらゆりケア

紹介 小林 優

1) 株式会社PlanB(ナーシングホームしらゆりケア)

ナーシングホーム(以下NH)しらゆりケアは、現在三重県内に4棟(日永3棟、桑名1棟)あります。NHは24時間看護師・介護士が常駐しており入居者様のケアや安全に生活して頂ける環境を整えております。イベントも充実しており、自社の給食会社によるイベント食や外部の方をお招きして獅子舞やBBQなどを行っております。

また、地域になくてはならない企業を理念として掲げており、訪問看護だけでなく地域に根差した活動、例えば地域のイベントへの出店や近隣の保育園・小学校と連携した施設内での絵画展、など地域と共同した活動を行ってきました。

2) 仕事の紹介

当社のリハビリの特徴として、年齢層の開きが少なく同年代(平均年齢30歳)でのコミュニケーションがとりやすい環境になっております。また、一人一人が目的意識を持って仕事に臨んでおり、臨床だけでなくマネジメントも学ぶことが出来る環境です。

業務内容としては、施設内の方のリハビリや訪問看護にて地域にお住まいの方の自宅に訪問しリハビリを行っております。また、委員会制度があり、Instagramの更新やイベントの企画・提案、社内研修など様々な委員会が活動しております。

3) 今後の展望

施設として

始めにしらゆりケアは、利用者様ファーストを掲げており、利用者様に関わりのある全ての方が利用者様の「自分らしさを叶える」生活に携われるように努力をしております。これからも初心を忘れずに、しらゆりケアとして今までおこなってきた事の「自分らしさを叶える」の継続と、さらに笑顔になれるような新たな挑戦もしております。

全ての方が「自分らしさを叶える場所」になる為のしらゆりケア。職員にとっても、職種や地位は関係なく素直に意見や感謝を伝えられる空間を目指しております。

業務として

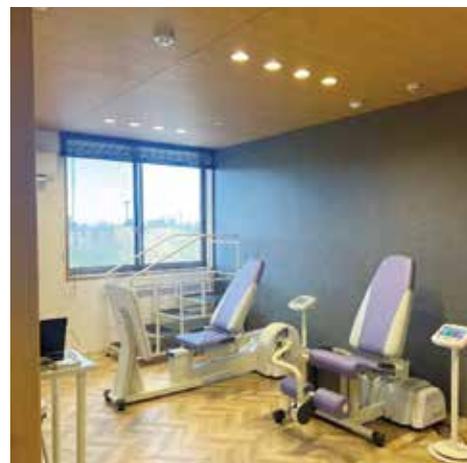
今までは業務の見える化・役割分担を中心に活動してきたため、業務レベルに応じて段階的にスタッフを教育していくこと、部署内での昇格推薦基準の作成を行うこと、営業効果の見える化を行っていきたくと考えております。

個人として

自身の得意なITの分野で業務の効率化や自分たちが行っていることのデータ化を行い、スタッフが業務だけにひっ



迫されず、自分たちが行っている業務の意味を感じられるような環境を構築していきます。また、各々が自分の役割や目的を持ち働きがいのある環境を作っていきたいと考えております。



設備の一部



施設内部



イベント時はBBQも



エキスパートに聞いてみよう！ 認定ハンドセラピストに聞く

認定ハンドセラピスト 鈴鹿回生病院 広瀬富二

【認定ハンドセラピストとはどのような資格ですか？】

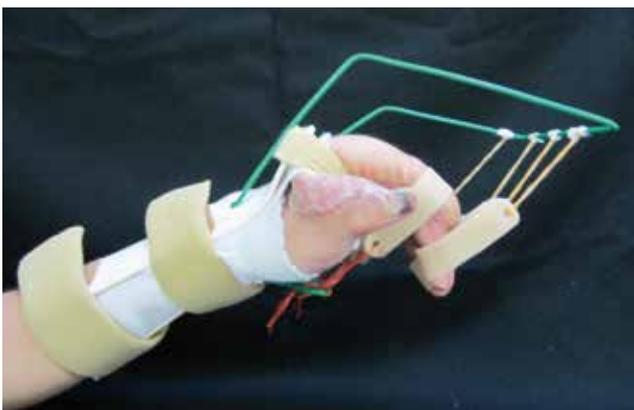
認定ハンドセラピスト制度とは、一般社団法人日本ハンドセラピ学会が設けている認定資格であり、ハンドセラピの進歩発展を図ると共に、高度な専門的知識と技術を取得したハンドセラピストの育成と資質の向上を図り、もって国民医療の向上に貢献することを目的とした制度です（日本ハンドセラピ学会ホームページより抜粋）。日本作業療法士会が設けている専門作業療法士（手外科）制度は認定ハンドセラピスト制度の一部で構成されています。そのため、認定作業療法士を取得し、認定ハンドセラピスト取得要件を満たすと専門作業療法士（手外科）を取得することが可能となります。認定ハンドセラピストは現在、全国で50名程度の作業療法士、理学療法士が認定されています。（2024年12月現在）まだまだ認定数が少なく、三重県では現在、私一人です。

【専門としている疾患にはどのようなものがありますか？ポイントも含めてお教えてください。】

腱鞘炎や骨折から切断指、複合組織損傷まで幅広い疾患を対象としています。その中でも、特に力を発揮できる疾患は切断指や複合組織損傷であると思います。その理由の一つに予後予測があります。全ての疾患に言えることですが、「損傷している組織」、「手術で再建した組織」、「未処置の組織」、「正常な組織」を考慮して予後予測を行います。「この手は次にどのような変形拘縮を起こす可能性があるか」を考え、先回りした治療を行うことが必要です。

先回りした治療の一つに装具療法があります。装具は、よくギプスなどの代わりに安静・固定の目的で用いられますが、その他の役割として伸張・矯正、予防・制御、代償・練習があります。予測される変形・拘縮を予防する目的で使用し、時には矯正目的で装具を作製します。

少し掘り下げると、プレス損傷などを起こし腫脹・浮腫を強く認めた場合、細胞外液が増加し、疎性結合組織が豊富



左:広瀬富二 右:入職以来の恩師である森田哲正先生(鈴鹿回生病院副院長 日本手外科学会専門医)

な手背に浮腫を生じます。MP関節にも関節液の貯留が生じ、関節包と側副靭帯の浮腫により、伸展位となります。また、手背の浮腫により伸筋腱の緊張が亢進し、MP関節の過伸展を助長します。さらにPIP関節は屈曲拘縮を起こしますが、メカニズムについては割愛します。そのため、装具によりMP関節屈曲位、PIP関節伸展位となるように装具を作製し、MP関節伸展拘縮、PIP関節屈曲拘縮を予防します。

今後、どのような変形・拘縮が生じるかを予測することにより、治療がスムーズに行え、行き当たりばったりな治療にならず、自分が目指している治療成果に近づけることが出来ます。

【手の外科を学ぶ際のポイントを教えてください。】

どの分野にも言えることですが、解剖学を徹底的に学ぶことが必要だと思います。特に、機能解剖という分野が必要であり、私は「手その機能と解剖」をバイブルとしています。この本は、私の恩師が1ページずつコピーして製本し、使っていたものを、学生時代に譲り受けました。そのため、大学生の頃から読み続けています。



手外科分野は、最初は難しいと感じる方が多いようですが、原因と現象を結び付けやすい分野であると思います。自分の考察に基づき治療プログラムを立案し、原因に対して治療が一致していれば患者さんの現象が改善し、考察が間違っていれば改善しません。そのため、すぐに治療の答えが出やすいところも、魅力の一つかもしれません。

【大事にしている視点があれば教えてください。】

手外科疾患は複数回の手術を余儀なくされ、治療が長期化することも多くあります。しかし、回復期リハビリテーションの対象疾患とはなりません。そのため、初期治療を行った病院で最後まで治療することが多いです。1人のセラピストが長期間向き合うことになることを、プレッシャーに感じ方もみえるかもしれませんが、私は長期間治療に関われることは手外科分野の魅力の一つだと感じております。

【各部署、委員、ブロックの活動報告】 1 啓発部より

一般公開講座（ハイブリッド）開催の報告

啓発部 介護老人保健施設 いこいの森 栗山 翼

啓発部では令和6年12月8日に一般公開講座をハイブリッド開催いたしました。初めてのハイブリッド開催ということで運営側として戸惑うこともありましたが、多くの方のご協力をいただき開催することが出来ました。

『ギャンブル依存症とは～当事者・家族・支援者ができること～』をテーマに、NPO 法人ギャンブル依存症家族の会 三重 渡辺香織氏、国立病院機構 榊原病院 昼田憲子氏にご登壇いただきました。家族、作業療法士などの支援者が出来ることやその経験をお聞きし、当日は当事者支部の方も会場に来ていただき、当事者・家族・支援者の貴重な経験も聴くことが出来ました。私自身、作業療法士としてギャンブルに関する知識や考え方、付き合い方を改めて考えさせられました。



公開講座の様子



令和になってから初めての対面とオンラインでのハイブリッド開催となり、準備や運営など多くの反省点や課題も見つかりました。しかし、集合ならではの参加者同士や休憩時間での会話などから生まれる新たなつながりも多くみられ、対面での開催の良さを改めて感じました。今回ご参加いただきました、当事者・家族・支援者の方々に感謝申し上げます。

「GO！GO！みいまるフェスタ」に参加して

啓発部 医療法人紀南会 熊野病院 岡崎靖弘

「GO！GO！みいまるフェスタ」（GO！GO！みいまるフェスタ実行委員会、御浜町、御浜町社会福祉協議会主催）が令和6年11月10日（日）に御浜町福祉健康センターで開催され、作業療法の啓発活動として参加しました。

GO！GO！みいまるフェスタは、地域活動やボランティア活動の体験・発表を通じ、地域活性化や福祉向上を目的としています。当日は来場者やボランティアを含め700名以上が参加し、賑わいを見せました。

イベントでは、小学生ボランティアによる手話ダンスの発表や地元伝統芸能を通じた交流会などのステージイベントに加え、福祉体験ブース、ニュースポーツ、クラフトバッグや己づくりなどの体験コーナー、喫茶や模擬店などの販売コーナーが設けられていました。今回は体験コーナーで「作業療法体験」ブースを出展し、作業療法の啓発活動を行いました。

作業療法体験ブースでは、「ペットボトルキャップオープナー」の自助具制作、塗り絵、付箋アート、二本の傘の上映、生活相談会を実施しました。自助具制作には子どもや保護者など約20名が参加し、「簡単に開けられる」「ペットボトルが開けられないと言っていたおばあちゃんにプレゼントしたい」などの感想をいただきました。塗り絵コーナーは子どもたちが自由に参加できる憩いの場となっていました。また、生活相談では、手指の欠損がある方からペットボトルのふたを開けやすくする方法についてのご相談もいただきました。付箋アートでは、熊野市生まれのOTイメージキャラクターを考案し、付箋には「自分の自慢できるところ」や「目標」を書いてもらいました。

参加した作業療法士からは「普段は接する機会が少ない地域の人々や子どもたちと触れ合うことができ楽しかった」といった感想や、「かかわり方が難しかった」といった声もありました。

今後も作業療法士として地域のイベントなどに参加し、作業療法の啓発の場を広げていきたいと考えています。



「みいまる」といっしょに



屋外ではステージイベント



にぎわう「作業療法体験」ブース

【各部局、委員、ブロックの活動報告 2 地域リハ部より】

笑顔の花プロジェクト ～笑顔の川柳カルタ～

地域リハビリテーション部 地域包括ケア班 笑顔の花プロジェクトリーダー
リハビリハウスみやま 浅井 巧



当チームでは、コロナ禍での外出制限が緩和され、以前のような生活に戻つつある中で、活動の幅が狭まっている方や人と会わなくなった方がいることを知りました。そこで、皆様が笑顔になれるきっかけを作るために「笑顔の川柳カルタ」を実施しました。

第一弾は昨年12月から今年の3月まで、第二弾は6月から9月までの期間に、県士会員の方々や患者さん、三重県に住む一般の方を対象に行いました。第一弾では約80作品、第二弾では約300作品の応募をいただきました。予想を超える多くの応募があり、どの作品も素晴らしく、詠んでいると自然と笑顔になれるものばかりでした。そのため、カルタにする作品を選ぶのは大変な作業でした。

各市町に配置されている市町担当者が、地域の行政や包括支援センターに宣伝に伺ったところ、「とても素敵な取り組みですね」「ぜひ多くの人に知ってもらいたいです」といった温かいお言葉をいただき、作業療法の目指すところを知っていただく良い機会となりました。

応募者の方々からは、「昔の写真を見返して、もう一度〇

〇に行きたくなった」「作品に合う写真を撮りに行くのが楽しみ」といった感想も寄せられ、活動のきっかけや新たな目標を持つことができたとのことでした。

今回作成したカルタは、ホームページで印刷して使用できるようにしましたので、ぜひレクリエーションや交流のきっかけとしてご活用ください。また、応募していただいたすべての作品をまとめた作品集も作成しましたので、こちらも印刷してリハビリ室の机の上に置いていただくとまた、笑顔になるきっかけになると思います。この度はご協力いただき、誠にありがとうございました。



笑顔の川柳カルタ

第2回認知症カフェ・回想法勉強会に参加して

主体会病院 伊藤 真里奈

令和6年10月9日(水)にオンラインで開催された「認知症カフェ・回想法勉強会」に参加させていただきました。認知症カフェとは、認知症の当事者や地域住民、専門職など誰でも気軽に集い交流が出来る場所です。

今回は地域の認知症カフェ紹介として、伊賀市の「オレンジカフェ」や「ななーるカフェ」、亀山市の「元気丸カフェ」での実際の様子や回想法の進め方を学ばせていただきました。

また、実際に勉強会の参加者でグループに分かれてグループ回想法を体験しました。初めて顔を合わせた方でも学んだ事を生かして季節の話から話を広げていき、あっという間の時間でした。認知症カフェでの作業療法士の役割として、当事者の方に沢山の話を聞いて頂けるように傾聴や共感が大切だと感じました。

また、表情の変化も確認しながら、グループで一体感が生まれるように他の参加者に話題を振り、さらに話を引き出すことの重要性を学びました。また、勉強会を通して、作業療法士の輪が広がり、横のつながりが深まった印象がありました。今回はオンラインでの繋がりでしたが、今後は地域の認知症カフェで皆様にお会い出来る事を楽しみにしています。

認知症は誰もがなりうる可能性があります。住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように他職種連携をしながら、集いやすい認知症カフェ作りに取り組んでいけたらと思います。

ご参加頂いた皆様、認知症カフェを紹介していただきました講師の先生方、運営の認知症とともに班の皆様ありがとうございました。

地域リハビリをもっと身近に「作業療法士のための実践研修」に参加して

介護老人保健施設つつじの里 小宮悠一郎

令和6年10月23日に開催されました上記の表題の研修に参加いたしました。

『地域で求められる作業療法士』の話題提供では、他職

種から作業療法士がどのように見られ、何を期待されているのかについて学びました。特に、他職種とのコミュニケーションにおいては、相手の職種の専門性を理解し、その職種が

知りたい情報をわかりやすい言葉で伝えることの重要性が強調されました。また、日常的に話しやすい関係を築くことの大切さを再確認しました。

情報共有の方法についても学び、電子連絡帳を活用した多職種間での情報共有の実例を知ることができました。これにより、自分の地域ではどのような連携ができるかを考え具体的な取り組みを模索する必要性を感じました。

「地域での多職種連携を考える」という話題提供では、訪問作業療法の事例を通じて学びました。例えば、ご主人が奥様のためにリフト浴を自作した際、通常なら安全面を考慮してプロへの依頼を検討することも考える中、「夫婦関係」へも配慮し、ご主人による作成を支援するあたりが作業療法士の視点らしく、ご本人だけでなくその方を取り巻く環境にも関わり、良い流れを作ることができるのが作業療法士の強みであり、目指していく部分になるのではないかと感じました。こ

のような事例を通じて、施設内でも作業療法士の専門性や得意分野を他職種に伝え、頼られる存在になりたいと改めて感じました。

地域リハビリと聞くと特別なことのように思いがちですが、実際には日常業務で行っていることが地域とつながっていると感じました。対象者の生活環境をその人の「地域」と捉え、その人らしい生活を継続できるよう、多職種間で専門性を生かしながら協力していきたいと思います。まずは、世間話や飲み会といったカジュアルな場面から関係を深めることが、連携の第一歩だと感じました。



【各部署、委員、ブロックの活動報告 3 組織部より】

東海北陸リーダー養成研修会に参加して

藤田医科大学七栗記念病院 渡邊 誠

令和6年11月23日(土)に WEB 開催されました「東海北陸リーダー養成研修会」に参加させていただきました。内容は、尾田基先生(國學院大學経済学部教授)の講演とテーマ別のグループワーク本「①県士会の課題・問題点」、「②魅力ある県士会プロジェクトの立案」でした。

講義では、組織論からプラットフォーム・ビジネスと戦略、コミュニティとの比較など県士会を運営するのに何が必要かを学ばせていただきました。

その後、各県士会の活動のプレゼンがあり、グループワークで問題点を共有し、魅力ある県士会にするにはどうするか

を議論できました。どの県士会も同じような問題や悩みを抱えており、参加できたことは大きな収穫となりました。他県との違いに目を向けると、リハレンジャーを活用した啓発活動、運転支援の活動、認知症関連の「笑顔の花プロジェクト」、WEBでの入退会管理などがありました。各部署の皆様が努力されていることを改めて感じました。今後、魅力ある県士会にするために活動しなくてはならないことを再確認できた研修会となりました。

今後皆様と共に三重県士会を盛り上げていきたいと思っています。今後ともどうかよろしくお願い致します。

【各部署、委員、ブロックの活動報告 4 運転と作業療法委員会より】

免許センター見学会に参加して

小山田記念温泉病院 森 順平

令和6年11月14日(木)に三重県運転免許センターにて開催されました「免許センター見学会」に参加させていただきました。

「免許センター見学会」では各医療機関・施設などから17名が参加し、臨時適性検査の見学・体験や運転支援に関する活発な質疑応答や免許センターの担当スタッフ様からの講義なども受けることができ、患者様・利用者様への運転支援の知識を深めることができました。

臨時適性検査では、身体機能検査、ハンドル操作、アクセル・ブレーキ操作、認知・高次脳機能検査など色々と体験させていただき、慣れるまで難しい操作があり、担当スタッ



免許センター見学会参加メンバー

プの方が観察しているポイントも教えていただき、大変貴重な経験となりました。

このような県士会の活動に参加することで、運転支援に関して臨床に役立つ知見が得られました。最後になりましたが、三重県運転免許センターのスタッフの皆様、今回参加した作業療法士の皆様、本当にありがとうございました。

【各部局、委員、ブロックの活動報告 5 障がい者スポーツ推進委員会より】

第27回三重県障がい者スポーツ大会（陸上競技）での競技支援補助

特定非営利活動法人 TEAM 創心 小山隆幸

令和6年10月12日、今年も三重県営総合競技場（三重交通グループ:スポーツの杜伊勢）にて開催され、快晴の中、選手・役員・ボランティアなど多くの（合わせて400人近く）参加がありました！

今大会のような『障害者陸上競技』では、車椅子ユーザー、義手・義足、視覚・聴覚障害、知的障害、精神障害など、多種多様な障害のある選手が出場されます。そのため、障害の種類や程度によって区分（クラス分け）され、その区分ごとに順位を競うというルールです。

競技方法にも種々の工夫が盛り沢山で、選手もそれに合わせて鍛錬しています。例えば視覚障害分野であれば、音源や伴走者を頼りとして全力で疾走しなければなりません。肢体不自由分野であれば、通常の手車椅子や義足と使い勝手が異なる、トラック競技専用の車椅子や義足を使いこなして走る場合があります。珍しい道具で言えば、把持能力に合わせてジャベリックスロー（羽付きの投てき物を投げる）競技や、

ビンバック（12cm×12cmの袋に大豆などを入れ150gとしたもの）を投げたり、蹴り飛ばしたりする競技もあります。支援する側も競技に合わせた対応が必要です。

この記事を読まれている先生方も、普段の臨床でさまざまな疾患・障害に出会い、ともに課題を達成されていることと思います。しかしパラスポーツ支援の中で『普段の生活を乗り越え、スポーツを行うこと』『スポーツで目標を達成すること』には、また違った達成感や喜びがあると感じています。

元からスポーツをされていた患者さんも、病気やけがで何かを諦めることになった対象者さんも、色々な方がみえますが、そういった方々の支援方法の一つとして、パラスポーツの導入はたいへん有効な手法の一つだと考えています。

どんな風に導入していけば良いか、気になって来ましたが？まずは体験から、障がい者スポーツ推進委員会 委員長小山までご連絡をお待ちしています！



【各部局、委員会、ブロックの活動報告 7】 北勢ブロックより

北勢ブロック研修会の報告

北勢ブロック長 市立四日市病院 伊藤あづさ

令和6年11月10日(日)に市立四日市病院にて北勢ブロック研修会を開催しました。前年度より北勢ブロック地区担当者間で計画準備をし、カナダ・アルバータ州の保健センターで勤務されている壁谷喜代子先生に『日本とカナダにおける作業療法士の役割について これからの作業療法士の「働く」を考える』をご講演いただきました。

今回の研修会はコロナ禍では難しかったハイブリッド形式で行い、オンライン25名、会場9名の参加がありました。カナダと日本の医療制度、作業療法士が働く環境の違い、壁谷先生のカナダでの貴重な臨床経験（病院～在宅）や事例を含めながらの非常に多岐にわたる内容でした。日本で働

く作業療法士の方々と久しぶりに交流ができてよかったですと最後に壁谷先生から感



想をいただきました。

今回の研修会で海外の作業療法を知り、日本の作業療法について追考するきっかけになれば幸いです。

今後も北勢ブロック全体としてスキルアップにつながるような研修会を企画していく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

選挙管理委員会からのお知らせ

会員各位

令和7年2月1日
 一般社団法人三重県作業療法士会
 選挙管理委員長 伊藤 篤史

公 示

定款第30条に基づく令和7年6月15日の役員任期満了に伴い、選挙の管理・運営の手引きに則り、役員選挙を下記の通り公示いたします。

記

1. 職名と定数

- ① 理事 3名以上20名以内（代表理事候補を含む）
 ② 監事 1名以上2名以内
 ③ 代表理事候補兼理事 1名

2. 理事、監事及び代表理事候補兼理事の選出について

- ① 理事と監事については正会員による選挙によって直接、選任されます。
 ② 代表理事については、定款第27条により、理事会の決議により理事の中から選任されます。今回の選挙では、正会員が役員候補者に対する意見を表明する機会として代表理事候補者という形で選出します。

3. 立候補の届出について

- ① 立候補は三重県作業療法士会の正会員であれば誰でも可能です。
 ② 役員に立候補または推薦される方は三重県作業療法士会のホームページより必要書類をダウンロードして「選挙の管理・運営に関する手引き」を参照し署名後、選挙管理委員長へ郵送もしくは必要書類に署名した書類をデータ化（写真・PDF等）して下記メールアドレスへ送信してください。
 ③ 立候補者及び推薦者代表が選挙公報に意見等の掲載を希望する際はその掲載文を400字以内にまとめ、テキスト形式（word形式）で下記メールアドレスへ送信してください。郵送の場合はCD-Rに保存したものを立候補届けに添付してください。

E-mail: mieotsenkan@yahoo.co.jp 件名:「立候補の件」「選挙公報掲載文の件」と明記してください。

- ④ 告示及び選挙公報掲載文は三重県作業療法士会ホームページに掲載されます。 以上

・立候補及び推薦候補受け付け締め切り：令和7年5月22日（木）当日消印有効

・開票日時：令和7年6月15日（日）

・開票場所：三重県総合文化センター 視聴覚室

届け出先：〒519-2403

三重県多気郡大台町上三瀬663-2 大台厚生病院 リハビリテーションセンター内

一般社団法人 三重県作業療法士会 選挙管理委員長 伊藤篤史 宛

TEL：0598-82-1313（代） E-mail：mieotsenkan@yahoo.co.jp

[賛助会員のご紹介]

NihonMokki のパズルレンタルのご案内

指先運動とパズルで脳トレ!科学誌ニュートンにコラムを掲載していた Asobidia の本格パズルが定期的が届きます。

レンタルなので、パズルに飽きたころに新しいパズルが届きます!

お問い合わせは こちらのQRコードから



日本モッキ

https://www.nihonmokki.jp/puzzle_rental/

0596-65-6039

e-mail wood@nihonmokki.jp

Puzzle Rental



VR型半閉空間無視りハビリ支援システム

vi-dere

Vi-dere(ウィヂーレ)はVR技術を用いて、机上検査ではできなかった、三次元的詳細を実現しました。

- 無視領域をマッピングを用いて可視化
- 独自のスリットシステムによる介入訓練が可能
- 日常場面に近いADL訓練課題も搭載(食事・通路通過など)



撮影協力: 亀田リハビリテーション病院様

視覚認知領域を定量的にマッピング化かつADL場面を含めた評価・訓練が可能になりました



株式会社システムネットワーク



星城大学大学院 健康支援学研究科

健康支援学領域

障害・リハビリテーションや健康支援・障害予防のための環境と方法を科学する

障害発生後のリハビリテーション健康支援と中高年者の心身の健康保持増進に向けた生活健康支援に関する知識と技術を普及できる臨床家と研究教育者を養成

2025年度 大学院 生 募 集

【お問い合わせ】 星城大学大学院入学試験係

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台 2-172 TEL.0120-601-009 FAX.052-601-6010
URL <https://www.seijoh-u.ac.jp/graduate/> e-mail:nyushi@seijoh-u.ac.jp

[勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について]

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。

<http://mieot.com/info-cat/study/>

[求人情報のご紹介]

求人情報の詳しい内容は、作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

[編集後記]

新年になり、寒い日が続いております。昨年の元日には能登半島地震が発生し、改めて災害の怖さや復興支援の大切さを学びました。三重県士会の会員の方々も多く災害支援に参加され、災害時のリハビリテーションの役割や大切さを学ばれたかと思えます。三重県士会でも災害に備えた準備を進めております。会員の皆様も災害支援の資格制度やセミナーなどにご参加いただくと幸いです。また、次年度には三重県士会が創立40周年を迎えます。これまでの活動を振り返るとともに、今後の県士会の役割を考えていきたいと感じております。今後の県士会発展のため、会員の皆様のお力が必要となります。今後ともどうかよろしくお願い致します。(編集:渡邊 誠、部局員:岡田拓朗、萩野 創、佐古健一郎、北畠正人)

発行所

〒514-1296
三重県津市大鳥町424-1
藤田医科大学七栗記念病院内
一般社団法人三重県作業療法士会 広報部
発行責任者:田中一彦

事務局

〒512-1111 三重県四日市市山田町5538-1
小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター内
一般社団法人三重県作業療法士会 事務局
TEL: 059-328-1260
FAX: 059-337-9511
e-mail: mieotjim@yahoo.co.jp